

[0015]九州大学生体防御医学研究所年報 : 2000年

<https://doi.org/10.15017/6246>

出版情報 : 九州大学生体防御医学研究所年報. 15, 2001-09. 九州大学生体防御医学研究所
バージョン :
権利関係 :

手術部

Department of Operation Center

平成6年より専任教官を置き，研究所附属病院における手術症例の周術期管理を行っている．最近は，病院内での危機管理から医療職員への救急蘇生講習なども実施している．臨床研究としては，当初は手術症例における血中サイトカインへの麻酔薬の影響を追跡してきた．平成11年よりは，急性期医療での酸化ストレス防御機構の中で，術中生体内チオール基の酸化還元に影響する蛋白質の変化を追跡している．

生体の酸化障害防御研究

Glutaredoxin, Thioredoxin system は，生体内で活性チオール基を持つ蛋白質の酸化還元を司ることで，生体機能の調節作用を持っている．両 system の活性酸素の消去作用，障害酵素の再生化作用，細胞内転写調節因子の作用調節は，良く知られている．特に手術中の患者は活性酸素の生成など酸化機構が活性化され，生体の恒常性が障害される．我々は，周術期の生体内 Glutaredoxin, Thioredoxin system の変動を，麻酔薬，合併症の影響等を通して見ている．現在は新たに，血清中なチオール化合物，蛋白質を含めて追跡している．

業績目録

学会発表

1. 永田高志，吉武慎一郎，佐藤道子，高松純，酒井輝文，河野勝一，熊手宗隆，東治道（2000/11/8）
高脂血症，急性膵炎を併発した妊婦で帝切後肺塞栓をおこし救命し得た一例
第26回日本救急医学会，東京．